



町人富久路

五

口印
108
5





町人叢書卷五

童女の昔物語よ烏鷗小いふ小鷗殿清身の果
 報がうらうか水はよい身を浮りき息いさう何の
 若衆をか腹の下なる魚と定て取て合衆は
 ここのれ我々の終日花わらたても合衆あさむりわく
 幸はく乾る魚又の菓子わらわら付ても皆主
 有て守りさういふれいじひひん年してさうわくお母
 お母めじ此おの合衆のふふ定て若く遊んで
 羽を息めんとして木お止れい又脚の旁あり清身
 とまいて水へく思ひとんととまいたるお母水

町人叢書卷五

5

○田ノ生ノ三
吟よわれ羨し鷗殿や飽漢多し人言少し此方
施し後(じ)吝惜中かみし鷗答て云鳥敏く
さふさひもしそり後らりんまふよ水、浮て河の
若しかくで合意得たりしあひも二つれ水の中
こそ是と働かすまふし澤す其苦勞人飛ぬ
ふわは其と異し生ある物されの中くを易く取
得る事うじよ下り足踏や水中の働こといな
お遠ありしあひも大海廣くは終日魚(い)を
して合ふたりあり或い風波くけき河の終日
巖(い)に合ふりて業はたれあり兎角うれ世の

自由の豊かき物に中くゆふは施しあふき修(よ)すこ
そ修(よ)す物にして清身いりしあひ修(よ)すはけく同
秋の夕ふれそ修(よ)すものをしひりく鳥(い)のうて
兎まふりや人の世れ者極まふて知(し)す
或人の云公儀と恐(おそ)れ修(よ)す事(こと)は人の第一肝(かん)要
から命(いのち)也公(こう)の字(じ)の神(かみ)かけと後(あと)て天理(てんり)ありて私(わが)ら
事(こと)と公(こう)のつり天子(てんし)の万民(ばんみん)の上(うへ)に居(ゐ)るは天道(てんどう)の
清(よ)名(な)代(しろ)りぬ修(よ)すて天道(てんどう)と恐(おそ)れ修(よ)す万民(ばんみん)と教(しよ)す
識(し)るは其(その)は度(た)は式(しき)みる天理(てんり)の神(かみ)かけありて
清身(よ)の私(わが)よの修(よ)すこと禁(かぎ)中(ちゆう)れ清(よ)すは公(こう)儀(ぎ)

とい申奉るも也禁中様とて執事給ふ節會行事
 をい公事といふ又世俗は暗なる所へ出る事と公界ふ
 出あつては禁中へ希らふ也武家の清代とかりて
 より將軍家の法事いふも公代字と付て公儀
 といふ也將軍家の天子の清名代もか給ひて天下の
 政道をけいこころ給ふ也天子將軍といふは天道
 ふまゝといひ給ひては法度禁制と立給ひ四民は天子
 將軍にまゝといひ奉ては法度禁制を信守りて天下
 を平也其は法度禁制の何事とて易れい一切の惡行
 やり惡行の第一の何れもといひ亂送かり亂送の

始の何れといふは一に礼奢也不忠不孝の五逆中惡
 かの數は皆此奢のより出るなり也清制れい法
 あり條目斗と出る金給つる此の法は法禁制の國ふ
 より兩代は後ていふより有りといふ此天理の法は法禁制
 い万代不易の定はて目存といふは及に唐天皇河
 業陀國といふたかよりかりて天理の法は法禁制と
 うまは信じてを公儀と守る人といふは世俗は風俗
 亂蕪なる人と公儀者ありといふは信り也といひ俗
 世人といふはのかりて信り終へ
 或人のいふは町人をいふ先祖の墓地をて修りて搦ひ

ての墓所のも也唐土にて父母先祖の墓地風水悪き
 内其子孫好の風水よる内其子孫繁栄栄に
 といひて其者は必探する也上代よりなる也聖賢
 の風水と探ひ給するもの子孫栄久の福なりといひ
 唯まばらるる墓地ありふかぬ不乃濕氣を堅固
 なる地と考へ探ひて葬り給ふ也父母先祖の死體
 の遠く小腐損ありと痛て考ふの誠を用ふべ
 子孫の富貴と求め給ふといひ此故に宋朝の儒
 者を風水の吉と探ふると謗を給ひし書
 小なりと子孫の遺棄禍福の葬地風水の吉也

より其道理は日本の天子攝家乃河内地盡く風
 水悪きも亦く此の流子孫今も絶絶つと又
 父母先祖の死體朽損を以て全き所の其子孫幸ひと
 受死體全のまはし子孫好なりといひ日本其軍
 陣にて討死して首を歎とられ死骸の形も腐臭の
 水中に流る或は火葬ありて焼損する人れ子
 孫の盡く貧窮ありて禍を受へたまふは實てさも
 かりしといふもや鬼角人の禍福は先祖の葬地乃
 幸也といふは相と考へたまふはさるる事と
 され人々の死骸とす朽損の形と相と考へたまふ

人の天理自然に人情されいふは孝悌の母の良能
 と云ふは性といふに沈むる公といふに沈むるは
 有りの人間の自然と君子の此自然は公といふは
 福福を福といふに性といふは公といふは
 人の公といふは鳴る鳴るといふは公といふは
 人後公といふは鳴る鳴るといふは公といふは
 公を公といふは鳴る鳴るといふは公といふは
 の天地は同じ何とて鳥の公といふは公といふは
 いふは公といふは鳴る鳴るといふは公といふは
 人の公といふは鳴る鳴るといふは公といふは

婦人其女と云ふ病を終はたといふは鳥の若くは
 をくも病を治す夫は多く人目にして死する日有
 つつ次つては夫を若くも治す世帯やれたる鳥
 ともおつたは夫を治す人宗小羽公や夫を治す
 よいといふは公といふは鳴る鳴るといふは公
 是種を治すといふは夫を治す人宗小羽公や夫を
 何を治すといふは公といふは鳴る鳴るといふは
 北雞乃晨と云ふ家は事はわりとけりといふは二十
 年
 北あまは家乃北雞漸く雄鶏の公といふは
 く何を治すといふは公といふは鳴る鳴るといふは

む記妻子堅固也思瓜のつてつやあよりつひあつて
 して是木の類は相遠ぬる後してんや雄鶏の曹鳴
 かくい常此来にして何の怪もさるぬれわは書ふ牝雞
 乃晨とる家のはけり也といひまの女に男とて
 至て國家の政道に只入るれ類の福の本也といつる
 を世俗といひあつてつる謗とあてぬるつて女を識
 めつるの也楚辭は金の鳴瓜諸侯の性ぬるつて
 も此を金の鳴瓜とていひ也日本とていふ者
 主も有つてつる仕合ふれ何ふれ鳴合するい古摺と
 押ひ不仕合ふれ何ふれ鳴合するといふ兆なりと

之り土中より桑興の一氣金の苗てつ物とつるつて
 或人のい居たりて火車にとりたりといふ瓜のつて町人百姓
 守の一生慳貪をて慈悲をたのめ也といふ結句と
 強盗と再瓜海り或い餘多打報して國家と奪ひい
 一軍けぬきい火車のつけりかいつるつて金を火車
 般し人れ目もさるあしや道師の僧れ道德ふしつと
 つて貪食を食をの葬よの智識の導れを國を
 結句火車のつる車は火車般し貪食人をいんつり
 新しや世俗は弱き老瓜歩いといつる類や瓶いお
 のまにわのつるつるよも有るおのまにわのつるつて

殺する人よいつたけらば佛神よ救をうけて新加持する
 人よ不幸を幸福の事有て仏神と常に相々念する事
 也と人々の幸福なる有りの此理にきまらるる事
 唐土日本にて大悪人と稱する歎後して此死後火
 車にさらわれりて因と又吾人と其の善し悪し不幸
 横難の災厄得るるも多し是いふもや雷ふこれ
 て此一災車あつてもとといふ人吾悪業をいふんや
 或人れえとていふ人間の分別はわらざる事と神明れ智
 をうけて圍とてり又いふて善悪と極りたる物と然る道
 理よるの海に必とたるは但善ありて是は善

是の悪ありし人の智慧を別して知く程の事をし
 右に致し圍とてりれとすといふは能なるもあて西人の
 身上は過ぐる高貴とて是に商人事と称し圍をとり
 占る七損徳は法とる事ありしを道理よ遠るもの
 故に其占るる善ありといふ善ありは下身代不
 相致の相いといふて是に商人と稱し公則天理は背く
 少よさや如圍や占るる事とありすの如く是も商人
 なるものなりとて天理は背き商人のいふやうなる
 事とれを占るることいふは商人のいふ事ありし言て
 多しもの也商人の今夜の盗入してはとるなりは損

といふに瓜石をいひし世ふ多しと云ふに河内國を
 食んとて色くし神といふやま程公つひは業
 あらふにしてかたははしといふおし又病人ある家必
 と方角のちま瓜石といふ昔の方け醫者といひる方
 の醫者と呼ばはし此の方とて名醫瓜石をてあら
 方とて孫巫醫と呼ばはし醫師多しと云ふといふ
 といふ田舎の村里におふ醫者二人といふは瓜石
 方角と探ふ事と云ふといふと病室を後と云ふ
 つりは泉列塚のこく一方大海とて人家をたふ
 日本ふ多しと云ふと醫者の方とて瓜石といひて西方乃

醫者れまおそい本儀かといふと四國より醫者といひ
 なるや四國土佐の南に海をたふとて南方の醫
 者といふてよりといふ海に琉球國といふ醫師といふ
 といふ外といふまははといひて多しといふ
 茲學者のいふに法徳の學問とて人けはすまふ肝
 要なるは能くといふと唯今會ぬ人の百兩を金と拾
 いて其主と尋て金瓜返とて事かといふ此人をい神
 といひてとまふといふも會ぬ人のいふと及といふ
 といふたりた百金と拾ひといふと侍て返らぬといふ
 世とい稀かといふと早下り安なる瓜石人ぬかといふ

唯今學者の町人のん或人銀子百枚の道具は急
 用は来者て銀子十枚よしてはついでといふは慥小
 後銀子百枚の値ある道具はとてついでといふは
 してあかき事必之也といふは慥は百枚といふは道具
 ありては下直よの賣物なる大分の利を得るは道
 小わればは銀子九十枚よして賣つてといふは銀
 十枚はと利徳とて九十枚よ買つてといふは銀乃
 學者といふは賢人といふは不足かたしといふは利
 かくは常に此志は先するものゝ神氏といふはつ
 といふは町人みふ我身の及るれといふはついで

て町人伝巻五

或人此の町人利後あり侍利後あり町人の利を捨てて
 専らとて侍の身代をばとての侍は名は捨て利と
 出るとする侍の身を止むるあり名利とて出ると
 道と知ると人といふ名利は世の日用也和人のては
 けりて名利を捨てていふは侍の身代をばとての侍
 ありては世の日用也和人のてはけりて名利を捨てて
 日つては成ていふは侍の身代をばとての侍は名は
 多くは男女の形ははの形ははの形ははの形ははの
 行頭人といふは侍の身代をばとての侍は名は

う統くはあいらひ結ぶるを津奉約と云うらふ事
 事と新詔彰ひあふ上座より無難也備へてや佛神
 神のそなや但佛神と結ひては和之同塵なれ其
 威之弘びて結ひて慈悲の津内能て万民を憐れ
 御まはけし事の中にも津も弘びたる和之同塵
 と云ふこと一人もあらずあつる塵弘むと結ぶ事
 事の中にも華弘む事と云ふこと一人もあらず
 御まはけし後の事をいふて結ぶる事を同塵とい
 う今時の立教は同塵と云ふ結ひて慈悲と云ふ
 佛神は元津と神をなはすの教は偶ある事な

ろそわれりけりけり神仏浄難儀は神をすん後
 綱のそありそみらあぬことあつる事と云ふ
 神のいあつて我いの事と又古事記よりともや新事
 記よりとりふそしむねならん神やうらんと
 有るはあへのそありとせん

わる人のいつふい唐土の古き書か日本に
 後し其中は日本の貨直ちて盗賊たる國ありと云
 づる書多し日本上代の人のいみま直貨素ちて盗
 人そありと云ふ事又近代の唐乃書よは日本
 盗賊殺害の事と云ふ事と云ふ事と記さるる事

神皇正統記

五

時代より日本書紀家町人の風俗大に悪くして盗賊殺
 害甚く多く刻(カキ)異國(イコク)まで日本に盗賊後海して
 唐土の海を乱暴(らんぼう)と事殺(こところ)十年の間と唐土と
 難儀(なんぎ)よきいて是(こゝ)に倭寇(わこく)として海をあらはれ用(もち)を
 いまありしてる(る)より八幡(やま)くす唐土是(こゝ)に名(な)付(つ)て
 いづれかの成(なり)や此(こゝ)に日本と盗賊の國(くに)なりといふ
 もあつても會(あ)ひの盜(ぬす)といふ大(おほ)いなり時代(よ)に
 お(お)つて古(ふる)人(ひと)れを失(な)くし人(ひと)を省(しやう)しや甲陽軍鑑(かうやうぐんかん)
 小(こ)武(ぶ)士(し)人(ひと)に團(だん)公(こう)なる公(こう)業(ぎやう)ことな(な)り侍(ざむらい)をい(い)は
 事(こと)也(なり)町(まち)人(ひと)を治(ち)じりよのよあはれ人(ひと)を治(ち)めらる(ら)る

とのされい(い)やうなるわ(わ)しく志(こゝろ)事(こと)なり公(こう)書(しよ)ふらう
 意(い)て見(み)ると海(うみ)ま(ま)事(こと)ありとい(い)ふれ(れ)

或都(あるつ)の町(まち)人(ひと)のあはれ町(まち)人(ひと)とい(い)つる(る)夷(えい)中(ちゆう)之(の)言(ご)葉(は)音(おん)律(りつ)
 國(くに)をけ(け)て終(つひ)り事(こと)多(おほ)し箸(しやく)柄(へい)櫛(し)入(い)る金(かね)鉅(こ)鐘(かね)
 多(おほ)くい(い)曾(そう)てま(ま)け(け)をけ(け)りとい(い)ふ夷(えい)中(ちゆう)に(に)町(まち)人(ひと)理(り)屈(くつ)者(もの)と
 答(こた)へり也(なり)て人(ひと)向(むか)ひ同(おな)名(な)多(おほ)く名(な)多(おほ)く故(ゆゑ)古(ふる)より苗(な)久(く)とい(い)
 の公(こう)付(つ)てい(い)つれ作(さ)はされ(れ)分(ぶん)明(めい)りて終(つひ)は(は)其(その)こ(こ)と
 夷(えい)中(ちゆう)に(に)一(いち)萬(まん)の物(もの)を(を)名(な)字(じ)公(こう)付(つ)てい(い)つる(る)あ(あ)ま(ま)事(こと)終(つひ)り
 事(こと)は(は)名(な)ま(ま)い(い)つ(つ)てい(い)つ(つ)る(る)物(もの)を(を)箸(しやく)の(の)り(り)柄(へい)け(け)る(る)物(もの)
 或(ある)は(は)ち(ち)ろ(ろ)の(の)苗(な)久(く)の(の)ほ(ほ)ろ(ろ)とい(い)つ(つ)る(る)終(つひ)り(り)上(うへ)に(に)苗(な)氏(し)

を存てい教はしうかたさむ河よのかりけりてあまを
かくはるるの借りのおとせらふ白く糸借りてくし後
すうううううのそとせしけてやま

わつ所人け文盲なりり實子なりて素子ぬきり冊子字
同は志して四書五経おし或河子無子のうらに揚氏なる
我ふすくううとくうりしよあかろぬ又ううううりけ
くと國々ゆり子にいふいりれく其前ぬ終く合
然とす昔の聖人賢人とやんのをすまわらるるや
りしてるるうり汝と書るる全く人れぬふわは我汝
ふやふいんこの事也まれ子あてのらんぬあ

とやといて感涙とありけりて楊氏と書みくを得
ならいもあう親乃公とあて何るすとばても坊も
のうよいうを悟るる常に信切の公われい也といて
わら有職者のいづる謚の院号古ハ天子皇后のわい
り且其後將軍家攝家大老院号あり二百年
以来大名小名も院号あり五十年此ころ八町人百姓
なると多く院号付事いさなり時世のあうりとい
いひあう後ましく勿律なる也其始あつたのさ
よりと富る且那ハノ横種より院と謚号ありと
且那とるるを得て善くつらそめいんけり

小ぬていつくね世のまうりともなるもの也日本いふこと
 の記録書籍さくろくしょくある庶人しよじんも院いんと稱なづてふれりるるもや
 わらふていつ昧まいの如ごとく帰かへりてま賤せんの稱なづるさゆへり
 おろり名ないふれりるれといふ家族かぞもわれた大なる僻言ひやくごん
 ありんつ記後一埋うり帰かへりてま殊ことの稱なづるさゆへり何ぞ富ふ貴き
 かり具那ぐなのふれりるゆへりや何院いん殿でん何大姉おほいしをて
 其品しよんいふかぬるるさゆへり此この後の財宝次第さいほうしだいをて
 何加いかた何大おほにありて町人ちやうじんも早はやする河かのありんといふ
 わらふ一ひとある富ふ貴きは百姓ひやくしやうしりり子こ孫そん寵愛ちやうあいの外ほかは
 公こう判官はんくわんと付つけといひは源げんの判官はんくわん叙じよ後ごに奉ほうか

くり西せいをといふ人のいふたれいけおのこといふ業わざ平へいたわわ
 かしんを中將ちやうしやうと付つけといふもいふし又また居士くしをいふ道
 徳とく有あり人を稱なづてつり又またいふ道德とくをてい官くわん禄ろくを有ありて
 富ふ貴きから人ひとと稱なづていつかあり富ふ貴きといふ官くわん禄ろく祐ゆ
 なる公こうつり町人ちやうじんをいふは從じゆ金銀財きんぎんざい物ぶつをいふも富ふ貴き
 といふといふに貴きは字じの官くわん位いある公こうつり富ふ貴きをいふ人を
 稱なづて長ちやう平へいといふ事ことも官くわん禄ろく有あり人のもの也況いはや本ほんと云
 儒にう者しやの位いはあり人をいふといふつり唐たう土どといふは
 道徳とくをいふも官くわん禄ろく有あり人の人ひとも又また盲もうありいれ
 信しん士し居士くしと稱なづるも家いへ也日本にほんの町人ちやうじん百姓ひやくしやう何なにら

位より下りて徳とあらざるも別々信士と云ふは非禮
 如く又塔婆の路なる所人れば俗名何れ清門尉何れ
 清尉と書する後尉は衛府の官名ありて五位六
 位の人ありされい尉といふは理はし或所の番を即
 狼藉者ありて人をあやうらうふくはぐあつて
 そらうらうい番を即の尉室のありて名を即
 じりてあつたれうはるいもやとあり
 或人の云分限者と令持とい同一の云分限とい分の
 限りと書す所のまう分限一分お意のうまう有る
 をてて身の分限と云うい相違はるまうい

邊の野を即求に身と静ふて公安樂ありて日と
 うい人と分限者といつて是令持の一生の身とあり
 まよと不知令持公はうい集る事と樂とありて
 公たり静ありてはるい公はうい公はうい公は
 おとつて同一の事なれ共公はうい公はうい公は
 公はうい公はうい公はうい公はうい公はうい
 評判のり此大福長者のいふい令持のいふ公はうい
 の公はうい公はうい公はうい公はうい公はうい
 者と兼おは師の圓と分限者といふて兼おは師を
 と町人の事とありて大福長者といふ町人の事

一はしん誠の教されたるふよりして、
 字ありはよびたるを一と請ふは、
 或學者の云、聖人の清詞の貴賤上下に
 一はしん誠とて人の教誡あるは、
 通用の道理のきき、其にありたる
 學者君子人又い、庶人より上の
 百姓にありたる教と、
 庶人のつゝ其風俗ありて天下
 一はしん誠とて、
 庶人のつゝ其風俗ありて天下

の教よりいぬもの也、但孝悌よ
 國て身と謹く用と節とて父母と
 と聖人の作を、
 教有るは清詞也、
 百姓農業のつゝ、
 を考へるといひ、
 民といふ第一の誠也、
 のつゝ財要ある事也、
 什西のつゝ財用と節と、
 質素儉約を存とす、

儒と理の町人百姓の學問の世一旬と流るるあり
 為るる所の庶人の識を思ふはむらじの海に下
 國家と流るる人といふも思ふるる教たる人
 此聖人の由はひしよりのひのひの書とくはとく
 といふ事所人使ふといふも思ふるる人
 むらじの町人百姓の儒學の世一旬と流るるの書
 かゝるはむらじの海に下るる道も思ふるる人
 日々相急がる服を令る世はむらじの海に下るる
 思ふるる五十日の精進とて世間はまゝに五十日とて
 若むの世とすといふ人酒飲と何とて思ふるる味

のこの公舎を乾魚公舎とて生菓のそくといふと舎
 にも味もたぬに五辛の類は壯年の人より嫌ひとて
 此のふたの思ふるる人酒飲と何とて思ふるる味
 生のもよふ酒とのこゝに肉の類と折に用てしるる
 のこゝに酒とて又諸樂をたてたてし神樂は
 其の思ふるる人酒飲と何とて思ふるる味
 むらじの町人百姓の學問の世一旬と流るるあり
 為るる所の庶人の識を思ふはむらじの海に下
 國家と流るる人といふも思ふるる教たる人
 此聖人の由はひしよりのひのひの書とくはとく
 といふ事所人使ふといふも思ふるる人
 むらじの町人百姓の儒學の世一旬と流るるの書
 かゝるはむらじの海に下るる道も思ふるる人
 日々相急がる服を令る世はむらじの海に下るる
 思ふるる五十日の精進とて世間はまゝに五十日とて
 若むの世とすといふ人酒飲と何とて思ふるる味

外にたの意の角がせしむるに内をいはれぬ
 右のくくふ勤り事なる事へ會賤なる土民いふも
 依ひあたるもとる百といふ一年に一日も觀の志百か
 といふけりなりと悪百まれの萬を用ひたる毎月の
 日の儒道神道いふなる事なる事なり日の教の合りとい
 つても何節遠く教之町人百姓といふ世を百といふ母
 の終り終りの日され終日くまのを公あてと妻の
 うられぬに潔斎にせし家業職分を分て一日の潔を
 かせたにせし何の其役候と勤りあつたけり人の
 目ふさるぬやうにせしものうられ候もあつたも也又

位牌とあつたりとせし人の二日程をより潔斎とせしあり
 いふ公をばるると斎といふと斎の字の別ものいふと
 よみて潔斎たる佛はそこの精進といひ儒道神道
 とその潔斎といふて情もなる也毎月の志百とせし志
 といひて精進といひ佛はの精進の眞肉公合せしる事
 されは容易なる也儒法の潔斎の酒肉五辛といふも及
 と何とせし一切の味いけしめしめ公合をいふと靈を
 よい身代はせしめて養食と具ふといふも我身の廉食
 沈着の物と合て思古人のけりて深恩報謝の
 候しる事なりといふなり

世人のまを天地の間より人を貴ぶるものあり其智慧あり
 ゆかり又天地の間より人の徳ありはるものありこれ
 智の徳ありゆかり此智の善と悪との徳あり此徳
 根幹の真智の悪ありは理ありゆかり人せられて習
 得るに長し真智ありれば邪智ありは世に貴ぶる人
 間とせられて畜養ありはる事ありは此邪智ありは
 かり畜養ありはるを此邪智ありは故のなり此畜
 養ありはるを此邪智ありはる人を極むるを
 此のありはるを此のありはるを此のありはるを
 此のありはるを此のありはるを此のありはるを

かくて我われいせ又此極のありはるは牛馬
 の類ありはる智ありはるは此極の類ありはるは牛馬
 霊ありはるは同き理ありはるは邪智に害ありはるは
 本也是人間の畜養ありはるは理ありはるは牛馬
 此つら成男けりもはるは指ありはるは人間の智
 恵と金銀と同一物とせはるは理ありはるは萬の物
 ありはるは貴ぶるものありはるは金銀也又萬の物ありはるは
 此のありはるは金銀と持る所人ありはるは法ありはるは
 此のありはるは牛馬名ありはるは是のありはるは牛馬
 此のありはるは牛馬名ありはるは是のありはるは牛馬

て執て遁ぐとよりと云義若い實の苦のわは樂其
 中のわは倍樂ははよの樂のわは若其中に有る樂は
 倍實富と云ては求る所の則わは倍樂は倍實富の
 處てわは倍實富多くと云然にわはよの倍樂
 をわはよの倍樂と云てはわはよの倍樂といふても
 真樂と云といわはよの倍樂と云てわはよの倍樂
 といふ飲食を欲乃正と得い見則真樂ありわはよ
 の地々のわはよの氣色やといて笑ひてやまぬ

享保四年孟夏吉日

浪華書舗海部屋多田勘兵衛藏

